

日田市の林業・木材産業

行われたことから、豊富な森林資源を し、江戸時代からスギの植林が盛んに 日田市は北部九州のほぼ中央に位置

り、年間取扱量は50万mを超えます。 33万㎡。市内には7つの原木市場があ 用部材を中心に生産しています。 ぞれが得意とする分野に特化した住宅 また、70社を超える製材工場は、それ 現在、日田市の素材生産量は年間約

の稼働により林地残材等が有効活用さ また、近年は木質バイオマス発電所

> 多様な関連産業が集積しているのも本 の木工業や、研究機関、林業が学べる も始まっています。その他、家具など れるなどエネルギーとしての木材利用 市の特徴となっています。 高校など、「川上」から「川下」まで、



取組について

基幹産業である本市において、人工林 り、現在でも林業・木材産業が地域の 資源の多くが利用可能な段階となる一 このように、古くからの林業地であ



大径材の製材風景

日田市の風景

3 テーマ別取り組み内容

テーマ①

地域の主力である無垢材の供給強化』 『大径材の需要促進と

もに、 用するため、無垢の梁桁等の加工・乾 開発を進め大径材需要を創出するとと 燥技術の確立、製材システム等の検討・ この大径材の価値を高めて、有効に活 必然的に大径材の出材が増加します。 ための本格的な主伐への移行に伴い 利用期を迎えた人工林資源の活用の 森林認証などの取得を促進し、

業は厳しい状況にあります。 住宅着工数の減少など、林業・木材産 方で、森林所有者の経営意欲の減退や

益を還元し経済の活性化を目指すため に取り組むことといたしました。 や経済価値を生み出すことで、地域に利 し、将来にわたって持続的に多くの雇用 の循環利用と日田材の需要拡大を促進 「林業成長産業化地域創出モデル事業」 このような情勢を踏まえ、人工林資源

『再造林促進のための

ます。 供給出来る体制を構築することで、地 再造林を徹底するため、枝条等の林地 どを行い、燃料等として採算ベースで 残材を山元でチップ化する実証実験な ごしらえ等の再造林費用の低減を図り 主伐への移行に伴い、林業適地での

担う体制を構築します。 コンテナ苗等を活用して、苗木生産業 者が苗木生産から造林までを一貫して また、造林の担い手を確保するため、

テーマ③

『多様な高付加価値商品の開発』

据えた、新たな利活用を図ります。 ことから、今後の住宅需要の低下も見 地域材の主力がスギやヒノキである

地域材のブランド化を図ります。

テーマク

枝条等の林地残材処理及び 新規参入による担い手確保.



試験研究機関

解決すべき地域課題

- 利用期を迎えた人工林資源の循環利用
- ・旺盛な木材需要に対応するための素材 生産量の拡大
- 資源量の充実に伴う大径材の出材増加 による需要とのミスマッチの解消
- ・再造林や保育にかかる担い手の確保
- ・主伐増加に伴う枝条等の残材処理 ・地域材活用木製品の高付加価値化

【日田の林葉・木材産業のボテンジャル】 素材生産量(干m3) 330 H27 H27 原木市場取扱量(千m3) 544 H27 製材工場数 73 H25 製材品出荷量(千m3) 301 H22 木質バイオマス発電所 2 H27

地域の関係者で実現する将来像

- ·人工林資源循環のための本格的な主伐への 移行と再造林の徹底
- 無垢材を中心とした高品質製品の供給強化
- 大径材の梁桁等への利用など安定需要創出
- 森林認証取得、JAS認定事業者の拡大
- ・建築材から家具等高付加価値化商品、枝条を 含めた木質バイオマス活用等A~D材の総合 利用推進による地域の雇用確保、経済循環



企業等 地域材の家具等高付加価値化商品への活用

地域材利活用商品のデザインカ向上・PR

家具等製造



「日田市地域」地域構想概略図



【今年度の主な取組】

無垢のKD材を中心とした販路拡大 ·JAS認定事業者の拡大

工場規模、製品ごとの強みを生かした連携販売促進

- 験調査 枝条チップ化搬出・採算性の実証実 径材の資源把握及び将来の出材予測 航空レーザ測量データを利用した大
- 地域材を活用した高付加 大径材製材の木材加工施設整備 研究開発課題の検討





第1回全体協議会の様子

業実施に

向上と需要の創出を目指します。

は展示会等への出展を行い、

知名度の

は、

「林業・木材産業の再クラスター

外でのネッ

トワークをこれまで以上に 業種横断的に地

を基本理念とし、

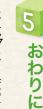
への活用を図るとともに、

積極

《者による協議会を設けて進めていき Ż 別 0 に 実 施に 地域構想の参画 あ たって は、 一者及び有 3 つ の

後の具体的な手法について協議を行 今年1 月には全体協議会を開 催 Ų

での を生か 木材 新た 技術 合利用を推進することで、 強化することを、産業の 循環を確実に進め、 化の実現に向けて、 そのビジョンの具現化と林業成長産 経済循環を生み出していきます。 と位置付けています。 すべての関係者が揃っている強 産業の振興を目指すものです。 は価値を生み出すことで、 人材の様々な組み合わせにより A材~D材までの JII 地 「再クラスター 域の 上から川 人工林資 地域資源 木材の 雇用の 林 下ま 業 確



早生樹も含め、地場産業である家具やイ ンテリア、住宅用内装材などの高付加価

そのため、

スギのほか、

、ユリ

キ等の

森林・林業・木材産業振興ビジョン」 平成2年に策定し た

い日